

ねおスイートの品種判別方法を開発しました

Konoら (2016) は、カキの渋形質の発現を制御するASTRINGENCY (AST) 遺伝子座に関連した領域をフラグメント解析することで、この領域の多型を検出しカキの品種識別に応用できることを明らかにしました。新品種については、育成者権保護のためにもDNAレベルの品種識別技術を保持していることが流出や無断増殖への抑止力になります。そこで、本県育成のカキ品種「ねおスイート」について、本手法を用いた品種識別技術を開発しました。

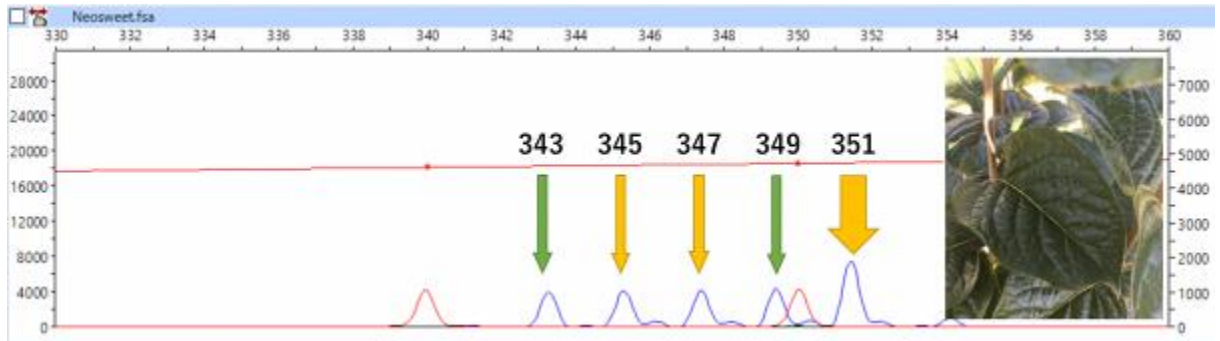


図1 「ねおスイート」のフラグメント解析によるAST領域の多型パターン

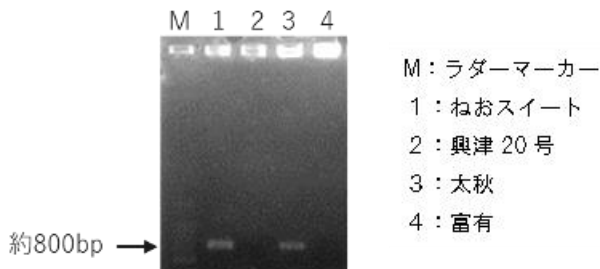


図2 雌雄性マーカーによる雄花着生の有無の判定
(雄花を着生する品種では、約800bpにバンドが検出される)

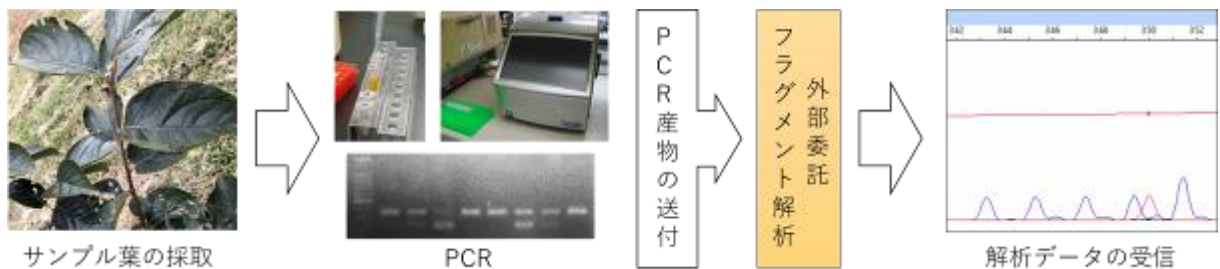


図3 品種識別技術フロー図

(研究成果)

- ・「ねおスイート」のフラグメント解析データは、343・345・347・349および351bpに5つのピークが確認されます。すでにアليل構成がわかっている237品種の中で「ねおスイート」と同じアليل組合せを持つ品種は1品種のみです。
- ・同じアليل構成を持つ1品種は、「ねおスイート」と違って雄花を着生しません。そのため、雌雄性判別マーカーを用いて区別することが可能です。